

【2018年9月22日～2018年9月28日までの推移】

【1】先週の回顧

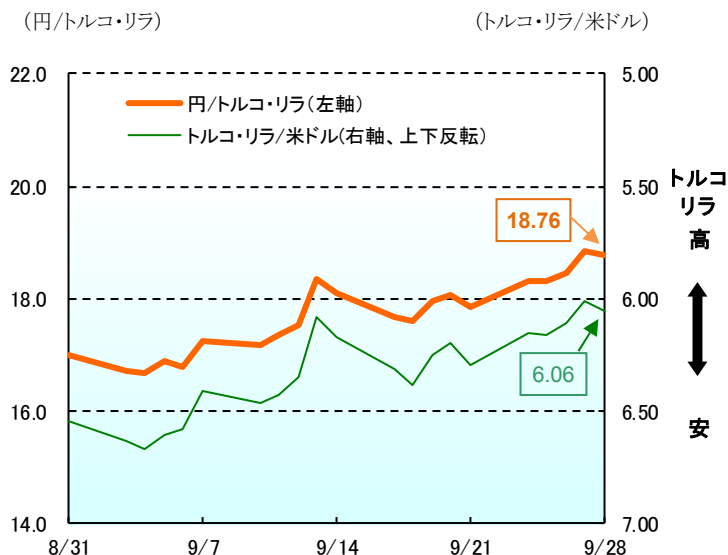
先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに上昇しました。トルコの2年国債金利も上昇しました。

米国に滞在していたエルドアン大統領は26日(米国時間)に、自身に米国人牧師を解放する権限はなく、判事のみがその権限を有するとの発言を行い、司法判断を尊重するべきだと語りました。10月12日(トルコ現地、以下同様)にトルコの裁判所で行われる同牧師の聴聞では、エルドアン大統領の体面を保ちつつ、司法判断の下で釈放に至るのではないかとの市場の思惑が維持されました。また27日には、大手上場銀行のアクバンクが外貨建て債務の借り換えをしたとの発表を受けて、年初来のリラ安が債務危機をもたらすとの懸念が後退しました。さらに、トルコ政府が米国のマッキンゼー・アンド・カンパニーとコンサルティング契約を結んだとの報道も好感されました。

【2】今週の見通し

先週トルコ・リラにとって好材料となるニュースが立て続けに出たことで、今週はいったん材料出尽くしとなりそうです。米国で重要指標の発表やFRB(米国連邦準備制度理事会)高官の講演が相次ぐことから、トルコの注目度は相対的に低下すると考えています。経済指標では、9月のCPI(消費者物価指数)の発表が注目されていますが、トルコ・リラが史上最安値から反発してきていることや、インフレの加速がすでに市場で予想されていることを考慮すれば、市場予想と大きく乖離しない限り、相場への影響は限定的と考えます。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年8月31日～2018年9月28日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】 (2018年8月31日～2018年9月28日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>